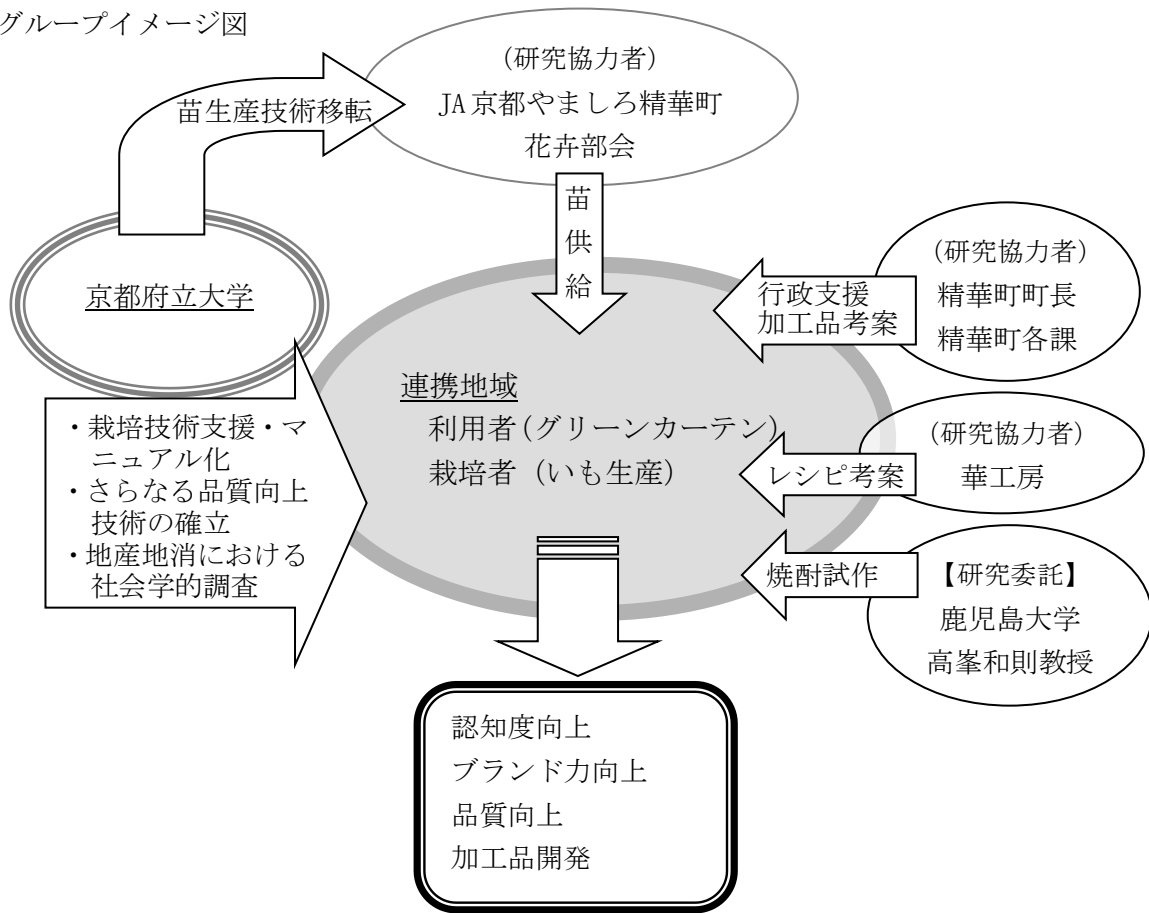


分類 番号	A19	取組 名称	京都府立大学精華キャンパスで研究を行っている「洛いも」の普及ならびに 精華町における特産農産物化を目指す研究
研究代表者：	生命環境科学研究科	職・氏名：	講師・伊達 修一
研究担当者：	京都府立大学（伊達 修一、中村 貴子） 外部分担者・協力者（精華町各課、草嶋孝行氏、田中正博氏、高峯和則氏 ほか）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府相楽郡精華町、京都府長岡京市、京都府綴喜郡宇治田原町 など		
【研究活動の要約】			
<p>京都府立大学で育成したヤマノイモ科植物のダイショを「洛いも」というブランド名で、地域特産物化を目指すとともに府立大学と連携包括協定を結ぶ市町村においてその普及を図った。精華町、長岡京市および宇治田原町内の保育所や小学校あるいは市役所に苗を配布して、グリーンカーテンとして栽培し、広く一般へ PR した。同時に、精華町農家において生産されたイモの地域特産物化を図るために、11月に開催された精華祭りでのPRおよび販売を行い、購買層の調査ならびにアンケート調査を行い、洛いものブランド化へ向けたマーケティング戦略のための基礎的データを得た。また、洛いもの新たな利用法として焼酎の試験作成を試みた。さらに、日射量に影響されるグリーンカーテンの草丈とイモの収量との関係およびイモの褐変の発生が土壌の過湿によるものである可能性を明らかにした。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>●グリーンカーテン：十分な受光量がある下鴨キャンパスでの栽培では1個体当たり被覆肥料（ロングショウカル100日タイプ、エコロングトータル100日タイプ）をそれぞれ30gずつ施与することにより例年通り約11mの草丈となり、平均約1.5kgのイモの収量を得た。低日射量あるいはネットの高さが低く十分な草丈が得られない長岡京市の各栽培地（長岡京市役所、長岡第9小学校および開田保育所）では昨年度、下鴨と同様の施肥量で栽培したところいもの収量が0.2kg程度と極めて低かったが、今年度は予測される草丈に応じて施肥量を減じることにより、いもの収量が平均で約0.6kgにまで高めることが出来た。これらのことから過剰施肥はいもの収量の低下につながる事が明らかとなった。</p> <p>●いもの褐変：いもが肥大して収穫するまでの時期（9月下旬～11月中旬）に灌水量を異にして栽培したところ、過灌水にした場合にいもの褐変が多発した。すなわち、露地栽培において、水はけが不良で過湿になりやすい圃場ではいもの肥大時期の多雨により褐変が多発する可能性が考えられた。</p> <p>●いもの利用：鹿児島大学 農学部 高峯和則教授の協力を新たに得て、洛いもによる焼酎の作成を試験的に試み、適切な醸造条件を明らかにした。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>8月21日の生物資源研究センター施設公開において、「洛いもグリーンカーテンの育て方」と題して一般来場者に講演を行った。5月11日、7月17日、8月19日および10月29日に洛いも戦略会議を開催し、精華町職員、洛いも生産農家、JA やましろ花卉部会、京都府立大学（伊達・中村および附属農場職員）の間で成果の報告と今後の展開について議論した。長岡京市（長岡京市役所、第9小学校、開田保育所）、宇治田原町（宇治田原小学校、田原小学校）、精華町（精華町役場、ほうその保育所、こまだ保育所、いけたに保育所）において洛いもグリーンカーテンを展示栽培した。また11月15日の精華祭りにおいていもを販売し、洛いものPRを図った。</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 野菜花卉園芸学研究室 講師 伊達修一			
Tel: 0774-93-3269		E-mail: s_date@kpu.ac.jp	

参考 (イメージ図、活動写真等)

研究グループイメージ図



鹿児島大学での溶いもを用いた試作焼酎の試飲

参考（イメージ図、活動写真等）



長岡京市役所における収穫時の植物体



長岡京市役所における収穫時のいも



精華町ほうその保育所における収穫時の植物体



精華町ほうその保育所における収穫時のいも



精華町いけたに保育所での収穫したいもの調理



精華町いけたに保育所で調理したいものを食べる